

きゅうしよくだより

令和5年1月
流山市立
東深井小学校

冬休みは日本に昔から伝わる伝統の行事や食文化を知る
よい機会です。お店にも、お正月用の食材がたくさん並んで
います。伝統食には一年間の感謝の気持ちや、新しい年の
しあわせを願う気持ちが詰まっています。



おお としこ 大みそかと年越しそば

月の末日を「みそか」といい、12月の末日は1年の最後ということで「大みそか」といいます。この日には年越しそばを食べる習慣があります。その理由には諸説ありますが、「細く長く生きられますように」や「切れやすいそばのように1年のいやなことを断ち切って新年を迎えられますように」といった願いが込められているといわれています。



もち 餅つき

お正月は新しい年を運んでくれる神様をお迎えする日です。鏡餅は、神様へのお供え物で「神様の魂が宿る」と言われています。丸い餅を二つ重ねることで「円満に歳を重ねる」という願いを込めています。特に末広がりの八が入った28日につくと、縁起が良いといわれています。



ななくさ 七草がゆ

「七草がゆ」は「春の七草」を正月7日におかゆに入れて食べ、1年の無病息災を祈る行事です。おかゆを食べる風習は中国から伝わり、やがて宮中で流行していた「若草摘み」の要素が加わりました。そして、江戸時代の参勤交代を通して全国に広まりました。1月1日の給食で七草がゆを作ります。

～春の七草～



がっこうきゅうしょくしゅうかん

1月24日から1月30日は学校給食週間です！

《給食のはじまり》

がっこうきゅうしょく めいじ ねん やまがたけんつるおかし ちゅうあいしょうがっこう ます
学校給食は、明治22年に山形県鶴岡市の忠愛小学校で貧
しくお弁当を持ってくることのできない子どもたちに出されたのが
はじまりです。最初の給食の献立は、おにぎり、焼き魚、漬け物の簡単
なものだったそうです。



《給食記念日ってなに?》

しょうわ ねん せんそう お よくとし ます にほん がいこく きゅうえんぶつし とど
昭和20年に戦争が終わりました。翌年、とても貧しかった日本に外国から救
援物資が届き、
しょうわ ねん 1945年12月24日からがっこうきゅうしょく さいかい
昭和21年12月24日から学校給食が再開されました。そして、ふゆ休み かせ
か月後の1月24日を「給食記念日」、1月24日から30日までの1 しゅうかん
週間を「給食週間」としました。「いただきます」「ごちそうさま」の感謝の気持ちを忘れないようにしましょう。

きゅうしょくしゅうかん ちばけんさん しょくざい つか りょうり ながれやまし しまいとし やくそく むす
給食週間では千葉県産の食材を使った料理や流山市と姉妹都市の約束を結んでい
る能登町と信濃町の郷土料理やオランダ料理も作ります。おたのしみに！

石川県能登町の郷土料理 (平成24年1月17日に姉妹都市になりました。)

の とうちょう みどり ゆた さとやま さとすみ ふうけい のこ まち
能登町は緑が豊かで、「里山・里海」の風景が残る町です。
《いかめし》海でとれた「いか」を能登半島の伝統的な調味料の
「いしる」で味付けし、ごはんに炊き込んで作ります。
《あおさのと野菜の粕汁》「あおさ」は青のりに似た香りがよい海草です。
酒粕を少し入れて体が温まるみそ汁を作ります。



長野県信濃町の郷土料理 (平成9年5月17日に姉妹都市になりました。)

しなのまち こうげん まち じょうしんえつこくりつこうえん ふく しんりん しぜん めく まち
信濃町は高原の町で上信越国立公園に含まれ、森林と自然に恵まれた町です。
《野沢菜漬け・信州りんご》

のざわな さむ ふう ほぞんしょく つ もの た のざわな づ
野沢菜は寒い冬の保存食として漬け物にしてよく食べられています。その野沢菜漬け
で野沢菜チャーハンを作ります。信州りんごという、おいしいりんごがとれます。



流山の歴史がつなぐオランダの家庭料理

と ねうらな ぐ けいし かていりょうり
利根運河は明治23年にオランダ人技師の技術指導でできた運河です。東京オリンピック・パリ
ンピックでは、オランダ選手のホストタウンとして応援しました。流山在住のオランダ人シェフの
ステッフさんから教えていただいた、オランダ料理をアレンジして、「オランダ風トマトスープ」を作
ります。